第二回振り返り会議～みんなで決めよう！これからの市民協働～ 要点録

1.これまでの経緯について（図書館長 渡邊）

投影資料：「振り返り会議 投影資料」参照

経緯の詳細については図書館 HP 掲載の報告を参照

- ・令和6年2月～3月に実施したデザイン会議から始まった、企画募集・企画実施までの流れを振り返り、今後の方針を決める会議。
図書館は事務局となり、今後の方針をみなさんと一緒に決めていく。
- ・今回行うことは以下の3つ。
 - ①実施したイベントを振り返る
 - ②イベント企画から実施までの流れについて協議する
 - ③今後のイベント企画・実施の流れを決定する

2.行ったイベントの振り返りについて（企画者発表）

- ・イベント企画決定会議で実施が決定した10件のうち2件は、以下の理由により中止。
 - ・11月3日実施予定「みんなで仕上げる！読書推薦文」：参加者不在のため中止。
※台風のため8月実施予定から11月に延期。8月実施の場合は参加申込者がいたが、再募集で不在となった。
 - ・11月実施予定「本の世界からとびだそう」：企画者の都合上中止。
 - ・前回の振り返り会議（9月29日実施）後に実施した、以下3件のイベントについて振り返りを行った。企画者が参加している場合は企画者が報告し、企画者不参加の場合は図書館が報告書を代読。
 - ① 10月20日開催
「多摩市の若手図書館職員の話を聞こう！！」
 - ② 11月3日開催
「学校図書館への支援を考える市民ワークショップ～学校図書館を知ろう～」
 - ③ 12月15日開催
「多摩市立図書館製本体験～自分で書いて作った本を図書館に！！～」

【参加者質問】

- 参加者 1 10月実施の「多摩市の若手図書館職員の話を知ろう！！」について、イベント決定会議段階では「多摩市の図書館をつくってきた人たちの紹介と現在の図書館の職員の紹介」とあるが、実際には若手職員の話のみだったのか？
- 企画者 そうである。企画段階から、メインは若手職員の話を知るということだった。イベントでは企画者より口頭説明として、多摩市の図書館の歴史などを紹介した。また、図書館と実現に向けて進めていくなかで、図書館側の協力できる職員がイベントに登壇した2名のみだったということもあり、今回は若手職員の話を知るということになった。
- 参加者 1 「学校図書館への支援を考える市民ワークショップ」の報告について、「満足度」が40%となっている。残り60%の参加者は不満だったということか。また、「学校図書館を考える会」という団体があると思うが、今回のイベントはその団体とは別なのか。
- 企画者 「非常に満足」「やや満足」に回答した方が40%で、「普通」と回答した方が60%であるため、「不満」と回答した方はいない。また、「学校図書館を考える会」とは別である。
- 参加者 1 「多摩市立図書館製本体験」について、NHKなどから取材があったにも関わらず、図書館からの広報が少ないと感じる。今後開催したイベントについてのアーカイブなどは検討しているか。
- 図書館 現時点では、「製本体験」のイベントに関わらず、この振り返り会議の場でイベントの振り返りを行うこととしているが、今後開催済のイベント報告についてアーカイブしていくことは検討している。
- 参加者 2 「多摩市立図書館製本体験」について、「自分で書いて作った本を図書館に」とあるが、どんな本でも図書館の蔵書にするのか。
- 図書館 このイベントに参加して図書館の蔵書にする場合、多摩市に関係のある著者や作者の本を集めている「たま市民文庫」として登録する予定である。「たま市民文庫」は個人出版などであっても多摩市に関連していれば蔵書にしているため、本イベントも同様である。
- 参加者 3 図書館の蔵書にするにあたり、中身の確認などは行っているのか。
- 図書館 寄贈いただくものは全て中身の確認を行っている。

3. 全体の流れの振り返り、協議

投影資料 参照

・9月の振り返り会議で結論が出なかった、以下の8議題について協議を行い今後のルールを決定した。詳細、会場意見は投影資料参照。

No.	議題	今後のルール	賛成人数
①	企画応募の件数について	・現時点では1人1件応募とする。	12名 (会場19名)
②	イベントの定例化・連続講座について	・定例化したいイベントについては都度応募が必要。	13名 (会場19名)
③	団体で出された企画の決定方法について	・団体で企画を出す場合は、同じ団体以外で2名以上の運営者の賛同を得ることとする。※投影資料 P9「イベント企画決定会議について」参照 ・客観性を持たせるために、団体も個人と同様に1団体1名と扱う。	13名 (会場19名)
④	企画の精度UP・イベント決定会議前の企画書事前確認について	・企画決定会議前に確認できる期間を約1か月取る。 企画書掲載場所：図書館公式ホームページ、図書館（全館） ・細かい内容を記載できるよう企画書フォーマットを見直す。	18名 (会場19名)
⑤	イベントチラシの広報について	・イベントチラシのフォーマットを作成し、わかりやすいチラシを作成できる仕組み作りを行う。 ・図書館HP内にページを作り広報を強化する。 ・中央図書館内に「市民協働コーナー」を設け、イベント運営者が展示できる場所を作る。 ・今後はメルマガ配信等により一層広報に力を入れていくことを検討。 ※広報の方法や内容は、企画者との相談による	19名 (会場19名)
⑥	イベントの集客について	・第一回意見に加えて、議題⑤の広報強化を進めていく。 ・集客を大きな評価基準とするのではなく、市民のやりたいことを実現することに重点を置き、小さく始めて大きく育てることを意識する。	17名 (会場19名)
⑦	イベントの評価基準について	・評価基準は細かく決定しないが、議題⑥同様集客が全てではないことを意識して事業を続ける。(評価基準については今後明文化も要検討)	16名 (会場17名)
⑧	イベントを開催したい人向けの講座について	・令和7年6月、岡本真氏によるフォローアップ講座を開催予定。 ・今後は会議内でアンケートを取り、市民の皆さんがやりたい養成講座を実現していきたい。	15名 (会場17名)

【議題以外で挙げた意見について】

参加者1 参加者が集まらなかった場合、事前に図書館側に連絡先を共有しておき、その際に参加協力ができるような仕組みが作れないか。また、ALSの方や精神障がいの方に謝礼を払って体験発表をしていただくようなイベントができないか。その場合今後の予算計上などを図書館側は検討しているか。

図書館 参加者が集まらなかった場合の広報については提案として承る。予算が必要

なイベントについては図書館主催イベントとなると思う。そういったイベントをしてほしいというご意見として承る。

参加者 2 話し合いの前提での「してほしい」ではなく「しよう」で話し合いを進める」に違和感がある。主催事業についても市民の意見を取り入れて考えてほしい。図書館が行うことを市民に押し付けないでほしい。

参加者 3 図書館にしてほしいことはたくさんある。具体的には、地域図書館で市民が企画をする際、しなければならないことが多いと感じているので制約をなくして欲しいと思っている。

図書館 意見として受け止める。

参加者 4 イベント決定会議内で既に検討したイベントについて、惜しくも実施できなかったものがあると思うが、その場合の繰り上げ当選などを検討しているか。

図書館 仕組みとしては現時点ではない。次回イベント決定会議でのプレゼンの中で、前回の決定会議での状況を織り交ぜていただくことはどうか。

参加者 5 地域館でのイベントについて、市民から「この図書館ではイベントがあるのに、なぜこの図書館ではないのか」という意見が挙がる可能性がある。その場合図書館としてはどう対応していく予定なのか。

図書館 図書館として、中央館だけでなく地域館でもこういった取組みを進めていきたいと考えているが、現時点では各館での下地が出来ておらず、どこでもできるという状況ではない。今後検討は進めていく予定である。

参加者 6 若者のイベント参加を促すという点で、活動室といった部屋を利用するのではなく、ラーニングコモンズなど開かれた場所でイベントを開催するというのも有効ではないかと考える。

図書館 図書館としても、図書館利用を妨げない範囲で様々な場所をイベント場所として活用していくことが良いと考える。

参加者 7 学校図書館の予算が少なくなっている現状があると聞いているが、例えば市民協働事業の中で、運営者を募って募金活動をするということ考えられるか。

図書館 開催場所や集まったお金の管理等、整理して検討しなければならないことは多いが全くあり得ない事ではないと考える。

参加者 8 図書館デザイン会議の中で、今後図書館業務に関連するボランティア（本の修理や書架整理など）も検討していくとあったが、進捗状況を教えてほしい。

図書館 図書館の植栽ボランティアについては、現在募集を開始しているところで

ある。本の修理など図書館業務に関わる部分も検討するとしているが、実施する場合は研修なども必要なため慎重に検討を進める必要がある。

参加者 9 図書館デザイン会議の中で「今後こういった講座は定期的に行うのか」という質問をした。その際に前館長は「やる予定はない」という回答だったが、どこで変更されたのか。また、今後4月5日に、図書館本館再整備基本計画検討委員会委員長の常世田氏が登壇するイベントがあると思うが、こういった市民協働の話についても触れるのか。

図書館 今後の運用についてフォローアップ的な内容のイベントが必要だと考えたため、急遽フォローアップ講座を計画した。4月5日のイベントについては、詳細な内容を現在相談中であるため、確実に市民協働についての話題があるとは言い切れないが、図書館本館再整備基本計画の中でも活動室やラーニングコモンズなど、様々な図書館の使い方を想定していたので、そういった話題の中で重なってくる部分もあると思う。

4. 今後の流れについて

- ・ 図書館としては、今後も市民協働イベントは継続したいと考えている。
イベント実施と準備期間が被らないよう、年8件のイベントを開催予定としている。
- ・ 企画募集、企画決定の流れを半年に一度開催したいと考えている。

次回は令和7年7月に、令和7年12月～令和8年3月開催のイベントを募集し、令和7年9月に企画決定会議を行う予定である。